日本糖尿病学会　国際交流委員会・将来計画委員会　若手支援企画：2026 年海外学会参加支援

第 62 回 EASD 参加レポート
― 若手の視点から ―

四方田　美和子会員
（島根大学医学部附属病院）



1. 参加学会

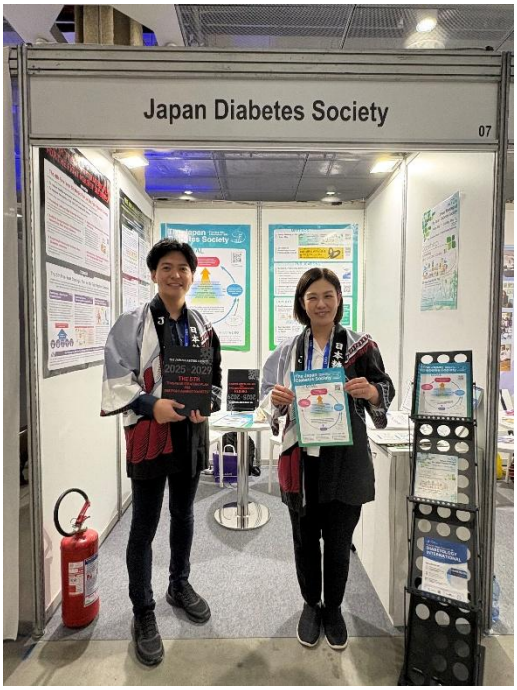
62nd Annual Meeting, European Association for the Study of Diabetes
https://www.easd.org/annual-meeting/easd-2026/
2026 年 9 月 28 日(月)～10 月 2 日(金)　ミラノ(イタリア)

2. 参加の目的

今回が初めての海外学会参加であったため、まずは世界各国の糖尿病診療・研究に携わる医療者や研究者がどのような活動を行っているのかを直接見て、海外学会の雰囲気を肌で感じることを目標としました。また、糖尿病および肥満症領域における最新の研究成果や治療動向を学び、今後の診療や研究活動に役立てたいと考えました。

JDS ブース担当として、日本糖尿病学会の活動や年次学術集会について海外参加者へ紹介するとともに、各国の糖尿病診療や研究の現状について情報交換を行うことを期待して参加しました。

3. 学会参加の体験



JDS ブースでは、日本糖尿病学会の活動や年次学術集会についての質問を受けました。特に 2026 年に京都で開催予定の ATTD-ASIA 2026 への関心が高く、医師だけでなく関連分野の参加者の来訪も見られました。日本で開催される国際学会への期待の大きさを実感するとともに、多様な分野の参加者との交流を通じて視野を広げることができました。

参加にあたり、事前資料を通じて JDS の活動内容を学びました。それまで十分に把握できていなかった学会のさまざまな取り組みや、対糖尿病戦略5カ年計画について理解を深めることができました。

肥満症領域に関する研究発表が非常に充実していたことが印象的でした。グルカゴン受容体/GLP-1 受容体デュアルアゴニストや GIP/GLP-1/グルカゴン受容体トリプルアゴニスト、アミリン関連薬などの新規治療薬の開発が活発に進められており、肥満症治療の発展を強く感じました。また、SURPASS-CVOT 試験や MASLD 関連の発表も大変興味深く、

今後の診療への応用について考える貴重な機会となりました。

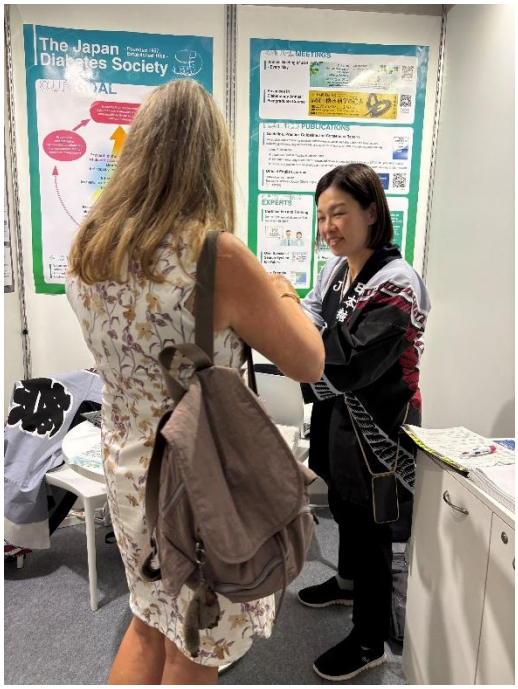
ブースではポーランドで診療に従事されている医師とお話しする機会がありました。ポーランドでは糖尿病治療薬の保険適用にさまざまな制限があり、病態に応じた最善の治療を行いたくても十分に薬剤を使用できない現状について伺いました。一方で、日本では比較的幅広い治療選択肢を利用できることや公的支援制度が整備されていることを改めて実感しました。国によって抱える課題が異なることを知り、国際交流の意義を強く感じました。

4. 学んだこと・成果

今回の学会を通じて、世界の糖尿病学研究が非常に活発であることを実感しました。特に肥満症やMASLD の分野では、新規薬物療法に関する知見が次々と発表されており、治療選択肢のさらなる拡大や病態解明の進歩を感じることができました。日々進歩する研究成果に直接触れることで、今後の診療や研究の方向性について考える貴重な機会となりました。

また、多くの女性研究者や臨床医が国際舞台で活躍している姿が印象的でした。私自身、未就学児の子どもを育てながら仕事を続けていますが、世界で活躍する女性医療者の姿を見ることができ、大きな励みとなりました。

さらに、日本人研究者や同じブースを担当された先生方の発表を拝聴し、自分も将来このように国際学会で研究成果を発信したいという目標を持つことができました。一方で、英語によるコミュニケーションには課題も感じており、今後さらに研鑽を積む必要性を痛感しました。



肥満症をはじめとする代謝疾患領域では、新しい治療薬や病態理解の進歩が目覚ましく、日常診療においても最新の知見を継続的に学ぶ重要性を改めて感じました。特に肥満症治療の発展は糖尿病診療にも大きな影響を与えると考えられ、今後の診療に生かしていきたいと思います。

JDS の活動や年次学術集会に対する海外参加者の関心は高く、今後も国際学会を通じた継続的な情報発信が、JDS の国際的なプレゼンス向上につながるのではないかと感じました。

5. 今後の抱負

今回の経験を通じて、国内だけでなく世界に目を向けて研究や診療に取り組むことの重要性を実感しました。今後は糖尿病診療に従事する臨床医として研鑽を積むとともに、自らの活動や研究成果を国際学会でも発信できるよう努力していきたいと考えています。今回の EASD 参加はその第一歩となる貴重な経験でした。

また、若手医師にとって海外学会への参加は、新しい知見を学ぶだけでなく、多様な価値観やキャリアに触れる大変貴重な機会であると感じました。ぜひ多くの若手医師にこのような支援制度を活用していただき

たいと思います。

6. その他

今回の EASD 参加を通じて、国際学会ならではの活気を肌で感じるとともに、糖尿病学や肥満症領域における医療の進歩を直接学ぶことができました。また、年齢を問わず多くの女性医師・研究者が国際舞台で活躍している姿が大変印象的であり、今後の自身のキャリアを考える上でも大きな励みとなりました。

一方で、育児中の女性医師にとって海外学会への参加は決して容易なことではありません。今回も 4 泊 5 日の参加にあたり、家族や義両親の協力を得ることで実現することができました。しかし、実際に参加してみると、それ以上に得られる学びや刺激が大きく、診療や研究に取り組むモチベーションの向上につながる非常に貴重な経験となりました。

今後は、今回得た知見や経験を日々の診療・研究活動に還元するとともに、自らの研究成果を国際学会で発信できるよう研鑽を積んでいきたいと考えています。

最後に、ご推薦を賜りました横浜市立大学 寺内康夫先生ならびに、本学会参加をご支援いただいた日本糖尿病学会の皆様に心より感謝申し上げます。